

伝統と現代を超える科学と文化の結合

—— 整形外科に於ける中国・西洋医学についての考察 ——

席 大 民
孟 和

東洋・西洋医学の結合は少なくとも整形外科の中国、西洋医学の結合であるといえる。決して、ただ中国医学の現代化の意義を促進する基本単位の文化を維持するという訳ではない。我々は既に我々の成果とその広く応用され、承認された事実によって、その普遍的な科学価値と文化価値を証明した。とはいえ、この点は尚、人々に十分体得されていない。西洋医学の多くは国外であれ、国内であれ、依然として中国医学を伝統文化の範疇に入る物であり、科学形態の西洋医学とは、同列に論じることとはできないと考えている。西洋医学自身の科学性と有効性の為に、完全に西洋医学を排斥し、中国医学だけを尊ぶことはもう時宜に合わない。だが、民間では未だに存在しているのである。増々多くの中国の医者が様々な程度の中国、西洋医学結合の仕事に従事し始めている、しかし、中国・西洋医学の高遠な文化意義と普遍的な科学価値に対する認識は、また不足している。故に現代の中国医学従事者としての精神的な使命が自覚的に確立されていないのである。本分では科学学と文化学の角度から整形外科の中国・西洋医学の結合の歴史を考察する。そして高度な中国、西洋医学結合が、中国医学整形外科の現代化が必ず通らねばならない道であるばかりでなく、現代整形外科学の新しい成長点でもあるというこ

とを説明したい。

一、伝統的中国医学の整形外科の保存及び価値

医学は実現医学の段階に入っただけでも、それは現代科学形態の医学だと考えられる。西洋医学整形外科の現代化の進化過程それだけで完成するものではなく、西洋社会の生産と生活実践の発展、科学技術実践の発展、そして検査、測定手段を含む西洋医学全体の発展に従って出来た産物なのである。この点是我々が「整形外科の中国・西洋医学結合の歷程の認識論についての思考」の一文の中で、整形外科発展の実践に於ける三つの段階の決定として既に総括してある。しかし整形外科発展史からだけ見てみると、西洋医学整形外科はその現代形態が現れる以前にも原始的な材料を使うという手法の他固定された伝統形態の段階をも経ている。このことは中国医学整形外科と西洋医学整形外科の区分、つまり伝統と現代の区分を彷彿したものであり、伝統と現代との関係は、又先進と後進との関係であると簡単に理解できる、という印象を人に与える。これは必ず何人かの人々の、伝統的中国医学整形外科に対する輕蔑的な態度を引き起こしてしまう。この様な態度ではもちろ

ん承認されることはなく、少なくとも、伝統的中国医学整形外科学の価値を正確に理解することはできない。更に整形外科の中国・西洋医学結合の高遠なる意義を深く理解することなど不可能なのである。

まず最初に、伝統と現代の関係から見ると、この両者は、全く対立したものではない。現代は伝統の中から発展してきたものである。しかしそれは伝統の中のある種類、又はいくつかの可能性から発展したものなのだ。そしてそのもう一つの可能性とはつまり、この発展の中でしばらくの間否定されてしまったものなのである。つまり、新しい発展段階の中で、伝統の中の一部の積極要素という存在のみが展開してきたものでありこれらの否定された要素の内、いくつかの更に新しい発展段階がまた積極要素となって展開されてきたのである。中世にアリストテレスの形而上学が展開された、古代ギリシャの人文的精神はアラビア人によって保たれ、中世に埋没してしまったという訳ではない。それが正にルネッサンスと近代科学時代の到来につながるのである。中国医学整形外科は伝統的整形外科の典型的な形態である。そしてまた、今に至るまで完全な形で保たれている伝統的整形外科学なのである。人々が、特に中国の医学従事者が短絡的な視野で現段階の医学を絶対化し、宝庫とも言える伝統的中国整形外科学を無視あるいは軽視する理由などない。この点について、下文で更に詳しく述べる。

次に、伝統と伝統の比較からみて、中国・西洋にはそれぞれ違いがある。現代西洋医学をもって現代医学の代表となるものにとって、古代医学は中国医学であろうと西洋医学であろうと、全ては伝統医学に属していると考ええる。しかし、伝統的医学と伝統的西洋医学にも又、異なっているところがある。この点については我々は「整形

外科中国・西洋医学結合の歴史及び発展の方向について語る」の一文で既に指摘しているが、診察、治療に於ける思考の筋道の上では、中国医学整形外科学は有機的全体観であり、古代西洋医学の全体観には、機械論と原始論の傾向がある。指導原則上では、中国整形外科は動と静の結合を強調しており西洋医学は時代に“広範な固定、絶対休息”の観点に傾いてきた。手術方法の上で、中国医学は外部固定を堅持し、西洋医学は外部固定から内部固定を主とする道へ走った。これは中国・西洋医学間の違いが伝統と現代の違いのみならず、中国・西洋医学伝統の違いをも含んでいるということを比較的良好に表している。現代西洋医学の様々な新しい発見と発明、そして、それが生んだ新しい治療方法は、“理論が観察に先行する”という科学学の原理に基づいていて、全ては理由なく生まれたものではない。実際、正に伝統的西洋医学の機械全体観と原始論が芽を出したのである。これによって我々はまだ一つの反命題を見出した。伝統的中国医学の所以は直接その現代形態を生み出したものではなく、その思弁の全体観の中で欠けている解剖学などの近代科学的文化の原因と関係があるということである。しかし伝統的中国医学が保ち続けているものは、博物館の意義と一定範囲の有用性を持つということだけではなく、医学ないしは科学発展の規律から見てそれが保ち続けているものは、正に、伝統西洋医学には無く現代医学の一步進んだ発展に必要な、大変貴重な基因なのである。

第三に、伝統的中国医学、特に中国医学整形外科学の特殊性から見て、いかなる伝統医学も比較にならない程の存在価値を持っているということである。それは最も長い歴史の中で形成された、最も完璧な理論形態と治療体系である。

医学、とりわけ最も早期に出現した整形外科

学は応用科学として歴史も長く、豊富な実践の経験を積み重ねている。それは治療体系が備えるべき必要条件である。この基礎と伝統的中国哲学文化を背景にした知識の結合は治療の思考の道や指導原則復位固定の健康回復方法を含む、完全なシステムの中国医学整形科学を形成した。更にこの完璧さと自分の説を上手くこじつけた為に偽りを実証出来ない特徴があるので自発的に現代形態の実証医学が成長してくるのが難しい。しかし伝統的中国医学の貴重な思想をもってその中に保っていくことができる。人口の大変多い社会が封鎖した環境は広範な応用が出来るようになってくる。又、その相当する程度の有効性を証明し、検査した。

欠陥のある外来の新しい医学が衝突したという前提のもと、単純な実践の機会には実に多い。勿論伝統的中国医学整形外科の発生の基本的な革命、変革を行うことは難しい。しかし実践するなかで診断のつかない病気に出会っても依然として、もともとある大系内を使ってとても有効な解決方法を見つけ出したのである。確かに伝統的中国医学整形外科は社会変革以降の疾病譜中の一切の問題、更には主要な問題をも基本的に解決することは出来ない。しかし多くの中国、西洋医学結合従事者は皆伝統的中国医学整形外科がこれらの問題を解決し、西洋医学よりも簡潔な思考あるいは簡単な方法を提供していることに気が付いている。これらはその大変普遍的な有効性と頑強な生命力を証明した。

ともかく、人々は伝統と現代の区分においてすぐ簡単に伝統的中国医学を否定するべきではない。これは現段階の科学に絶対化の傾向が加わっているのである。科学、それは現代科学であり、それはまた一種の文化でもある。その成功する所には伝統文化の根源があり、そしてその極限性もまたその伝統文化が見つけた根源に

従っている。現代医学科学が伝統医学に勝っているもののひとつはそれが持つ非常に強い自己成長力にある。この能力は実践に直面しての発展と疾病譜の変化が持つところの自己批判意識及び異源文化の中の積極的要素の寛容さと吸収意識を体現するべきである。そして、簡単に伝統文化と異源文化を否定することや本位文化の現段階の科学的絶対化することは、実際は正に科学的精神の衰退の表現である。中国の医学従事者にとって伝統的な中国医学は異源文化ではなく、本位文化の重要な組成部分である。科学価値から考えようと、また文化価値から考えようと、豊富な宝庫を持つ伝統的中国医学を無視することはできないのである。

二、中国・西洋医学整形外科に伝わる相互補足的な価値

社会は交流していく中で進歩する。科学は伝達する中で発展する。医学の最高目的は病人の治癒にある。有効な医療方法があれば、保存価値があるばかりでなく、伝達価値もあるのである。現代の西洋医学はその広範な有効性と広い伝達性をもって世界医学の主流となった。そして伝統的な中国医学もまた独特の有効性と代用不可能な独自性をもって、中国12億人口の実践分野となった。また西洋医学発祥地である西洋で新たな一派をたて、最高の位置を占めてしまったのである。(わかっているところでは、既に数社と中国大陸の権威ある中国医学の病院合併の伝統的中国医学の診療所がアメリカ、ドイツなどの西洋の国で開かれているそうである)。もちろん西洋医学が中国と中国医学に入り込み、世界双方向に向かって伝達されることの意義は違う。

西洋医学が中国に入ったのは、西洋の列強諸

国の中国侵入とはほとんど同時であった。西洋医学の中国に対する作用もまた西洋列強諸国の中国侵入における作用とよく似たものであった。つまり、二重性を持っているのである。西洋列強諸国の中国侵入は、客観的な積極的意義としては、古い封鎖的な社会構造を打ち砕こうというものであり、そこに新しい生産方式がもたらされた。またその消極的な作用とは、資源の略奪、労働力の苛酷な搾取人民の災難、そして主権の喪失等々である。西洋医学が中国に入ってきた積極的な意義とは、その現代科学の形態が社会変革に適応し、疾病譜に新たな変化をもたらした、また普遍的で有効な検査手段や治療方法、実証的生理学、病理学、解剖学及び生物力学等の医学的科学理論をももたらしたことである。またその積極的作用とは、相当長い期間、中国医学を締め出してしまったところにある。また中国医学が世界へ向かうにはまだ遠く、西洋医学が中国に入ってくる状況と同様に論じる訳にはいかなかった。西洋人が中国医学に関心を持ち出した原因は、ひとつには伝統的中国医学の西洋医学に対するいくつかの補充作用に気づいた為であるが、ただこれは非常に限界があった。例えば、ドイツの中国医学診療所の絶対多数の病人は足腰の痛み及び筋肉痛等の治療に訪れるだけであった。また一方では、西洋人が後の現代社会において、東洋文化への関心を通して、自然の道に帰るという……を探し始めたのである。それによって、はっきりと目覚めた中国医学従事者は現在の中国・西洋医学のいわゆる相互補充に満足できなくなり、科学的な態度を持って医学が主流の、いくつかの共通課題と分野の中で中国・西洋医学の相互補充の価値を見いだしたのである。

再び整形外科に話をもどそう。骨折治療に於ける中国・西洋医学の相互問題といえ、これ

は後に説明する高度な整形外科の中の中国・西洋医学の結合問題が前提にある。骨折復位、固定、癒合、機能回復の4つのポイントがある。

復位とは、元の解剖位置に回復することであり、位置が正しい程、機能もよくなる。伝統的な中国整形外科では復位手法をとっており、難度は高い。大部分は復位機能で、X線検査を行わない状況の下で、客観的な標準なしに解剖し位置を合わせられるのだろうか。また長所は、血脈を破壊しないので傷は小さく、癒合も早いことである。西洋医学の整形外科では復位切開を主としており、更にX線検査、体位、解剖も確実である。しかし欠点は、血脈を破壊し、傷も大きく、感染しやすい上に、癒合が遅いことである。

固定とは、回復した位置を変えないように保つことである。理想的な固定が骨折の癒合に有利ならば、また適度な活動を保障されるはずである。伝統的な中国医学の整形外科は外部固定を実行し、早期に治療を始めることを奨励した。その利点は、血脈を破壊しないことは、新陳代謝にも有利に働くということである。また弾性固定は、一定程度の早期活動にも良い。しかしその欠点は、少し複雑な骨折に対してその固定方法は安定しておらず、奇形癒合をもたらしやすいこと、更に早期活動を奨励してはいるが、有益な動きのみを奨励し、不利な動きは防止するという保証ができないことである。固定の問題に於いて西洋医学の整形外科では内部固定と外部固定の2種類に分けており、内部固定が主流となっている。内部固定は骨髓内針と加圧鋼板等の方法を採用していて、利点はしっかりと固定することである。欠点は上記にも述べたように、血脈の破壊、損傷が大きいこと、感染しやすいことの他に、骨の表面を形成する骨内膜、骨皮質及び骨外膜を破壊してしまうことで

あり、更に応力を遮るものを作り、癒合に不利である。外部固定のみを採用した場合、内部固定に比べて損傷は小さいが、やり過ぎると粗くなり、損傷が大きくなる可能性があり、また液が染み込んで感染するという問題もあり、解決が難しいところである。

癒合とは、折れた骨を再びつなぎ合わせて、ひとつの整体にすることである。折れた骨の癒合の質は、下記の基本要素によって決められる。第一に、復位が正確であるかどうか、西洋医学の整形外科は、有効に対位の解剖問題を解決した。癒合する中で必要な材料を省き、外観をきれいに整え、機能回復も比較的十分である。伝統的な中国医学の整形外科では有効に対位を解剖するという保証が難しく、不完全な対位の癒合には多くの材料が必要となる。また時間も長くなり、外観は完全に整わず、機能の完全な回復にも必然的に限度が生じる。第二に、新陳代謝が良好かどうか、である。西洋医学の復位切開は内部固定及び針を多く通しすぎれば粗くなる外部固定であり、血脈と組織を破壊し、癒合に不利である。伝統的な中国医学の整形外科は、できるだけ正常な新陳代謝を壊さない外部固定の方法を採用してきた。これは骨の表面の形成には良い。第三に、折れた骨の癒合の面で適度な圧力や刺激はあるのが西洋医学の内部固定方法には、固定材料と考え方に限度があり、応力を阻止する現象を克服するのが難しいので、癒合には不利である。伝統中国医学の整形外科は、弾性固定と適度な活動を強調する。これは折れた骨の癒合に有利なのである。しかし不利な動きを防止する方面に関しては方法に限度がある。以上の要素はいずれも孤立したものではなく、どの要素も良好な癒合ができないという問題を抱えている。また中国・西洋医学の整形外科では各方法がそれぞれ長い年月行われてお

り、またそれぞれに弊害があり、二者の相互補充価値は見逃せないものがある。

機能回復とは、折れた骨と負傷者の身体復元の活動能力に回復させることである。これは骨折治療の最終目的であり、負傷者・病人にとって最も関心のある問題である。伝統中国医学の整形外科では早期の活動を強調する。つまり機能回復という要素を復位、固定、癒合の過程内に浸透或いは作り出すのである。上記の分析から見て、この考え方は正確なものである。上記の癒合に有利な道理以外に、負傷者や病人の心理的な負担を軽減させ、積極的な整理反応を引き出すこともできる。しかしこの考え方は、実施する上で伝統中国医学の整形外科の範疇内に於いて安全性の信頼できる保証に欠けている。西洋医学と中国医学の整形外科の最大の違いのひとつは、西洋医学の整形外科は機能回復と復位、固定、癒合の三つの要素をきっぱりと分けている点である。前の三つの要素に対する消極的な影響は前述の通りである。またこれは生理活動に対する巨大な心理的ストレスを作り出すなどの消極的な影響があり、治療過程を大幅に延長してしまうことになる。

上述をまとめると、中国・西洋医学の整形外科にはまず、相違点があること、これらの相違点は骨折治療の過程の中の各要素内に於いて見られ、また長い年月の間それぞれの方法が採られてきたことである。これはつまり、中国・西洋医学の整形外科が相互補充の価値を潜めているということである。

三、中国の整形外科従事者の現代に於ける、使命；高度な中国・西洋医学の結合

我々は中国・西洋医学の整形外科が骨折治療

の各要素中の優劣について逐一列挙し始めていた頃、二者を完全に同等の水準に置いて表明してはいなかった。誰も中国・西洋医学の整形外科が伝統と現代の差の上に存在することを否定しなかったのである。とはいえ、現実にはこの臨床の医療実践に於いて、中国・西洋に通じる医者達は皆、この二者の比較に気づいていた。我々の比較は単に高低を示すものではない、また本位文化の自慢を言い出しているのでもなく、中国・西洋医学の整形外科に潜在している相互補充性、及び整形外科の中国・西洋医学結合の可能性を指摘するためなのである。医学の最高目的は傷や病気の治療である。中国医学であれ西洋医学であれ、この目的に服従している、またこの目的を絶えず追求する過程に於いて発展していかななくてはならない。整形外科の中国・西洋医学の結合の実践の発展はすでに証明した伝統中国医学の整形外科の積極作用だけでなく、西洋医学が間違った方向に進んだ際に重要な貢献をし、すでに現代整形外科の新しい成長点を形成し、更に高度な中国・西洋医学が結合した整形外科学の世界の整形外科学の未来発展に於ける遠大なる前途を示してくれたのである。

整形外科の中国・西洋医学結合は中国大陆で何年も展開されてきた。我々はかつて、「整形外科の中国・西洋医学結合の歴史及び発展方向論」の中でその歴史を三つの段階に分けた。第一段階は、西洋医学が中国医学を排斥したところから、中国・西洋医学が临床上相互補充にあるところまでである。これは人々が西洋医学整形外科の臨床の極限性及び伝統中国医学整形外科の有効性、価値の保存と研究の段階を知り始めた時期である。第二段階は西洋医学及び自然科学の方法を用いて中国医学を研究し、発展させるところである。この段階を経て、伝統中国医学の整形外科は伝統から現代の歷程へと進ん

だ。第三段階は、疾病譜の発展に基づいて中国医学の方法に於ける優越性の原理と西洋医学の外部固定方法を結合させ、中国・西洋医学を更に高度な有機結合の新たな方法を創造するのである。孟和が創造した骨折の復位固定器療法から見て、この更に高度な中国・西洋医学の結合は新しい機械や療法があれば、骨折治療の要素の中で更に良く中国・西洋医学の相互補充価値を体现でき、同時にそれぞれの欠点をも克服できる、結果として体位が正確になり、上手く固定でき、癒合も早く、更に機能回復にも絶好の治療効果をもたらすことになる。この成果及びそれに基づく成果は多くの国で特許を獲得したばかりでなく、国の衛生省から全国へ推進する十大科学技術成果のひとつに挙げられ、アメリカのピッツバーグ国際博覧会にて金賞を受賞し、海外の同業者からの高い評価を得た。

この成果の研究及び推進の成功は、我々の中国・西洋医学の結合樹立に対する信頼の賜であった。なぜなら伝統中国医学の整形外科が現代化しようとも、やはり西洋医学の整形外科がその現用する極限性を克服し、この高度な中国・西洋医学の結合によって道が開けたと言ってもよいからである。同時に我々は新しい使命感を持った。それは整形外科の中国・西洋医学の結合業務の更なる発展が高水準の中国医学従事者の推進に依るということである。この思いと使命感は以下の思考に基づくものである。

最初に、中国医学の従事者は中国・西洋医学に共に精通している者が多い。中国・西洋医学の結合の基本前提は勿論中国医学と西洋医学に通じる学者が存在することである。西洋の西洋医学者は、一般的に西洋医学を知っているだけで、中国医学のことは分からない。中国医学を分からないのは、一つに文化の隔絶と言葉の障害があるためである。この隔絶と障害は、当然

外在的なものではなく、中国語及び中国伝統文化そのものの難しさにある。この点はとりわけ中国医学に甚だしい。二つめに、西洋人の文化に於ける優越感からなかなか中国医学を勉強するという気にならないことである。たとえこの様な状況が改良されたとしても、中国・西洋医学の結合に必要な程度と規模に達するまではまだまだ道は遠い。西洋人が西洋医学を分かっているとはいっても、本位文化の立場に立っているのでは、しばしば自分自身の奥底に隠れているそういった考えを発見するのは難しい。まさにいわゆる、“山から見る月を知らなければただこの山にいるだけのこと”である。また現代の中国医学従事者は皆、系統的な勉強をし西洋科学・医学を把握している。それに中国医学を把握する勉強も比較的容易である。更に、現代科学の視点から中国医学を見ても、或いは異源文化の背景から西洋医学を見るのであっても、容易に迷信を排除し極限性を発見することはできる。全面的に中国・西洋医学の精髓を把握することは、高度な中国・西洋医学の結合に必要な知識の基礎を定めることになるのである。

第二に、中国医学の従事者は広範な中国・西洋医学結合の成果に於ける臨床実践の機会を持っている。医学は実践性の強い応用科学として、臨床実践の推進と検査経験から切り離すことができない。中国12億の人口は、世界人口の約4分の1である。骨の傷や病気の各治療機会も相対的に多くなっている。孟氏骨折復位固定器は1976の中国唐山大地震後、大量の負傷者を治療する必要から発明されたものである。実践の需要は“孟氏架”の生産を促した。その後国家衛生部の委託を受けて、われわれは20数期の孟氏架療法養成クラスを設け、迅速にその実践領域を拡大した。更に実践する中で、絶えず改善していき、系統化した各種骨折、骨病、奇形の

医療体系を形成していった。まさに、多くの成功した治療実践の過程に於いて、それが伝統中国医学の整形外科を超え、また現代の西洋医学で常に使用する処理法の、中国・西洋医学結合の優勢性を超えていることを表している。実践領域が広がるのかどうか、それは人口数だけではなく、人々のある種の文化、科学を受け入れる程度によっても決まってくる。中国大陆では、伝統中国医学や西洋医学、及び中国の西洋医学結合は全て受け入れることができる。この様に、人々の選択は主に治療効果によってなされている。また西洋では、西洋医学体系内部の新たな方法には多くの実践の機会がある。西洋医学が主流な方法がこの様であるだけである。例えば外部固定療法にはいくつかの問題が出てくる。アメリカ医学の管理部門はかつてその臨床への応用を禁止していた。もちろん中国・西洋医学の結合方法は、中国でもそれを阻止する動きがなかった訳ではない。しかし政府からのものではなく、また民間からでもなく、主に数人の西洋医学者による中国医学と中国・西洋医学結合に対する偏見であり、西洋医学の葉でお金をもうけようという考えからであった。これらの問題は比較的解決の易しいものである。

第三に、高度で高起点にある中国・西洋医学の結合は既に現実的な可能性を備えた。中国大陆の医学学校は、中国医学と西洋医学はやはり別々の学科として独立して存在しているが、お互いに授業を公開している上、中国・西洋医学結合の特別科目や選択科目の開設もしている。この様に中国・西洋医学に精通した学者を養成するために、基礎を築き、中国・西洋医学結合の伝統意識を打ち立てているのである。とはいえ、現在中国・西洋医学の結合上偉大な業績のある学者や、しばしば中国医学或いは西洋医学の一つの分野に深い造詣のある学者などは、中

国・西洋医学結合の仕事は彼らにとって始めるのが遅い割には、成績が優れている。それは我々に高度な中国・西洋医学の結合は、いつも高い地点から始まっている。という啓示を与えてくれる。それは高品質系の接ぎ木或いは容易に交雑して優良な新しい品種を生み出しているかの様である。なぜなら中国医学或いは西洋医学の中のあるひとつの分野に造詣が深ければ深いほど、その直面するところの本体系内部で解決の難しい問題に対してもより深い体得があるからである。一旦これと相互補充関係のあるその他の体系に目を向けると、具体的問題の解決策が容易に見つかる。範囲をおし広めると自己が従事する専門分野の中で中国・西洋医学の結合点と突破口を捜し当てることができ、中国・西洋医学結合の新たな医療体系を形成できるのであ

る。

この3つの優勢な基礎上に於いて、更に多くの中国医学の従事者がこの使命を認識することが必要であり、中国・西洋医学の総合事業の研究と推進に投身していかなければならない。病を治し人を救うために志を立て、神聖なる事業に貢献している中国医学の従事者にとって、中国・西洋医学の結合はまさに素晴らしい才能発揮の場所なのである。

〈参考資料〉

1. 戴新加坡「骨科中西医結合的認識論思考」
『同濟李刊』、1995年、第2号
2. 「論骨科中西医結合的歷史及發展方向」、
『邁向21世紀的中西医結合——中西医結合学会成立十周年學術發展研討會文集』、1992年